

Invitation to Tea

1977
作品ナンバー0143

〔茶の湯への招待〕

国際観光振興会の日本紹介映画は、『日本の年中行事』（1969）以後も、『日本の冬』（1971）、『日本の春』（1972）、『日本三週間の旅（日本の旅）』（1974）、『日本のスポーツ』（1976）と続いて製作された。茶の湯は、今や海外の人々にも親しまれている。



記録

35ミリ

カラー／15分

米・英・仏・独・西・
葡語版

- 企画
国際観光振興会
- 監修
裏千家

スタッフ

- 製作・脚本
村山英治
- 演出
松川八洲雄
- 撮影
木塚誠一
- 音楽
松村禎三
- 照明
山根秀一
- 解説
エドワード・ヘイン
(米・英語版)
- 出演
裏千家
井口海仙
他

秋の庭での野点（のだて）を導入に、狭い草庵茶室の侘び茶を見せる。茶の湯にはそのように遊びの茶と、枯れた求道的な茶の両面がある。

茶道というと、近世の初めに千利休によって完成された後者の侘び茶を指している。現代的な生活空間で、たとえ椅子にかけて茶を点てても、茶の湯の精神はかわらない。茶の湯は生活の芸術ともいわれている。

この映画は、別々の戸口から登場した主人と客が狭い茶室で出会って、主人が静かに茶を点て、客が喫す。その動作の流れを一貫して見せている。それは能の舞台を思わせる。能の鋭い音楽の代わりに茶の湯には、炉の釜にたぎる湯の音と戸外の茶室を訪れる小鳥のかすかなさえずりが聞こえる。